



4年ぶりのマカオはちょっと

5月中旬、5泊6日で香港とマカオへ観光旅行に行ってきました。香港は好きでよく行っているのですが、マカオは4年ぶり2回目。その間「コタイ地区」と呼ばれる南部に、巨大リゾートホテルが次々完成していると聞いていたので、特にその周辺を見て来ることにしました。

マカオへは、香港から高速フェリーで行く方法が一般的。マカオ半島あるいはタイパ地区いずれかのコースを選ぶことができるので、私はコタイ地区に近いタイパ方面へ着くフェリーに乗ることにしました。フェリー降り場には、各ホテルがチャーターする無料バスが待機しており、すぐに目的のホテルへ向かえます。

ちなみにコタイ地区で今注目されているのは、2007年にオープンした「ザ・ベネチアンマカオ」と、それを挟むように最近建設された、各々3つのホテルを擁する巨大カジノリゾート「シティ・オブ・ドリームス」と「ギャラクシー・マカオ」。まずは「ギャラクシー・マカオ」のバスに乗り、現地へ向かうと…4年前にほとんど更地だった場所はきれいに整備され、黄金色に輝く建造物がそびえ立っていました。

あまりの変わりように「ポカーン」としながら中に入り、とりあえず一回りしてみたのですが、それだけで足が疲れてしまうほど。続いて「ベネチアン」、「シティ・オブ・ドリームス」と回ってみたところ、一番古くからある「ベネチアン」が、意外にも一番賑わっているのにちょっと驚きました。たまたまだったのかもしれませんが、確かに3つの中では「ベネチアン」が一番庶民的なショップが多いし、見た限りカジノもリミット金額の低い台が多く、敷居が高く

ない気がするので、ファミリー層などに受けているのかもしれませんが。新しい2つは綺麗ですしゴージャス感もすごい一方、ちょっと居辛い空気も感じられたのは確かなので…。

マカオではこの他「ウィン・リゾーツ」なども覗いてきたのですが、前回に比べてカジノ入場の際のチェックが緩くなっていたのはいいのですが、どこでも気軽にすぐもらえた無料のミネラルウォーターが見つげにくい場所に置いてあったり、安く遊べるテーブルが少なくなっていたり、全体的に「気軽にちょっと遊びに行く」場所ではなくなりつつあるのかなー？ と、庶民派の私は感じてしまいました。

先ほどのコタイ地区では、まだまだ多数のリゾートホテルが建設中で、ラスベガスに倣った「コタイストリップ」なる大通りが完成しつつあります。たった4年でものすごい“タイムスリップ”を経験したかのような私、あと数年経てば、またまた隔世の感に浸れるのでしょうか。マカオにはまたぜひ遊びに行きたいと思っていますが、できれば今回感じた敷居の高さは、なくなってほしいな～と願っています。



そびえ立つゴージャスなホテル群に驚きの連続

じんぼう・みか

法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。

取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」（バジリコ、07年）